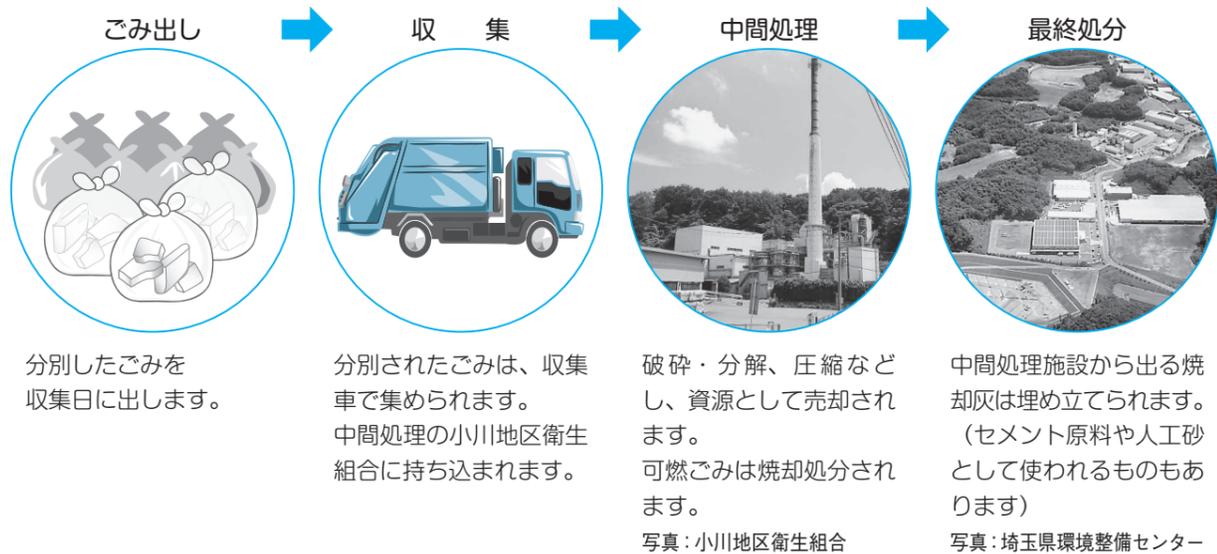


ごみはどうやって処理されるの



ごみは処分されるとどうなるの

ごみの種類	処理方法	処理後のゆくえ	
可燃ごみ	焼却	焼却灰を埋め立て一部資源化	
資源ごみ	ガラス類	破砕分解	資源化・埋め立て
	びん類	—	びんの原料など
	かん (アルミ・スチール)	圧縮	アルミ・鉄製品の原料
	ダンボール	圧縮	ダンボールなど
	金属類	選別・分解	資源化
	ペットボトル	減容	衣服、再生シートなど
	資源プラ	—	固形燃料化
	廃プラ	焼却	サーマルリサイクル(熱利用)
不燃ごみ	混合プラ	粗破砕	埋め立て
	小型家電	選別	レアメタルを資源化

ごみがきちんと分類されていると、資源として活用できる部分が多くなります。

始めよう ごみの減量化



— 小さな変化が大きな変化に —

例えば、毎日1回、割りばしを使用していた人が「マイはし」を使用するようになったとします。割りばし1膳あたり約7.5gなので、1年間続けるとすると…

$$7.5 \times 365 = 2.7 \text{kg}$$

7.5g × 365日 = 2.7kg分のごみが減ります。

もし町民全員が同じ取り組みをしたらどうでしょう。

$$2.7 \text{kg} \times 18,000 \text{人} = 48,600 \text{kg} (48 \text{トン})$$

2.7kg × 18,000人(嵐山町人口) = 48,600kg (48トン)ものごみが減ります。

単純計算で全員が同じ取り組みをした場合ですが、このように一人一人がちょっと意識と行動を変えるだけでごみの量が大きく減ります。

— 1年間のごみの量は 1人200kg以上!?! —

$$3,610 \text{ト} \div 18,000 \text{人} \approx 200 \text{kg}$$

(ごみ排出量) (嵐山町人口)

町の直近5年の家庭ごみ排出量は、減少傾向にあります。

ごみが増えると処理にかかる費用も増えます。ごみの処理費が増えると他の行政サービスが提供できなくなったり、その規模を縮小せざるを得なくなります。

